

市長記者会見記録

日時：2023年4月4日（火）14時00分～14時37分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：等々力緑地再編整備・運営等事業の契約を締結しました（建設緑政局）

今年は東海道川崎宿起立400年！！様々なイベントや中間灯設置などを行います！（川崎区役所）

市政一般

<内容>

<等々力緑地再編整備・運営等事業の契約を締結しました>

【司会】 ただいまから定例市長記者会見を始めます。本日1つ目の議題は、「等々力緑地再編整備・運営等事業の契約を締結しました」となっております。初めに、本日御同席いただいている方を御紹介いたします。

本事業を受けていただくことになりました川崎とどろきパーク株式会社代表取締役社長、小井陽介様でございます。後ほどお言葉を頂戴したいと存じます。

それでは、まず福田市長から本議題について御説明いたします。市長、よろしくお願ひします。

【市長】 よろしくお願ひします。本日、等々力緑地再編整備・運営等事業の契約の締結につきまして報告をさせていただきます。それでは、お手元資料の1ページを御覧ください。

事業の目的でございますが、等々力緑地は緑と水の潤いの空間を有し、良好な都市環境を形成するための重要な役割を担うとともに、多数の運動施設、市民の憩いの場など多面的な機能を有する市民に親しまれている総合公園でございます。本事業は、令和4年2月に改定した等々力緑地再編整備実施計画に示す等々力緑地の目指すべき将来像の実現のため、PFI法に基づく事業手法を活用し、緑地の再編整備と運営管理を含めた一体の事業として実施するものでございます。

次に、2の契約の概要及び3の事業の概要につきましては記載のとおりでございます。本日は、契約の相手方である川崎とどろきパーク株式会社代表取締役社長、小井様に御同席をいただいております。等々力緑地については、その立地や敷地規模など、首都圏の中でも有数の大きなポテンシャルを持つ公園であり、民間ならではの視点や柔軟な発想による創意工夫を存分に発揮していただき、スポーツを中心に人とま

ちが元気になり、平日も休日も365日、常々にぎわい、誰もが心地よく過ごせる等々力緑地の実現に向け、官民連携により取組を進めていきたいと考えております。

私からの説明は以上でございます。

【司会】 続きます、本日おいでいただきました小井社長からも、事業の取組内容等についてお話をいただきたいと存じます。小井社長、よろしく願いいたします。

【小井社長】 川崎とどろきパーク株式会社の小井と申します。本日はこのような機会を頂戴いたしまして、誠にありがとうございます。私ごとになりますが、学生時代、野球、バスケットボール、アメリカンフットボールをやっておりまして、根っからの体育会人間でございますが、社会人になって三十数年たちますが、スポーツに関わる事業は今回が初めてでございます、スポーツに対して恩返しができる機会を頂戴したと思っております。社会人人生の集大成にする覚悟でございます。どうぞよろしく願いいたします。それでは、着座にて説明をさせていただきます。

お手元の資料3枚目の別紙-1を御覧ください。まず、弊社の紹介をさせていただきます。弊社は今回の事業に特化した特別目的会社で、川崎に根差す企業、あるいは多様な専門性を有する企業9社の出資により設立した企業でございます。各企業の強力なバックアップの下、事業を推進してまいります。本日は、弊社の掲げる事業への思いやコンセプトなどを御紹介いたします。

下段をお願いいたします。等々力緑地の魅力や可能性を踏まえ、市民や利用者の多様な活動拠点となることを目指し、コンセプトは、「つながる ひろがる 未来をつくる TODOROKI GREEN PARK」としてしています。この実現に向けて、3つの基本方針に沿って事業を推進し、日本一笑顔があふれる公園を目指してまいります。

別紙-2、お願いいたします。基本方針に対応する、こちらの8つのアクションプランを策定しております。これらのアクションプランを実行することでコンセプトを実現してまいります。下段は、公園全体の将来計画です。先ほど掲げたアクションプラン実践の場としてデザインし、地域とつながる、最高のスポーツとつながるをポイントとして、円形状のメイン動線となるアクティビティループを設け、回遊性や周辺とのアクセス性を向上します。この動線を軸に、施設を配慮して、相互に活動が関与し合う公園を目指しています。整備のスケジュールは、設計や環境影響評価の手続きを経て、工事着手は2026年度前後になると想定しています。その後、順次工事を進め、2029年度末に公共施設の整備完成を目指してまいります。

別紙-3は、球技専用スタジアムについての説明です。コンセプトは、「感動、賑わ

い、誇りを創出するEmotional Stadium」です。施設計画のポイントとして、顧客と競技者の一体感を創出し、新たな観戦環境と観戦価値を提供します。包み込むような断面構成で計画し、スタンドとフィールドの距離を短くし、観客には臨場感あふれる観戦環境を、選手には声援が届きやすい競技環境を提供します。

別紙-4は新アリーナです。コンセプトは、「歴史・賑わい・想いをつなぐ『れんそう』のアリーナ」です。施設計画のポイントは、様々なイベントに転換可能なフレキシブルなアリーナです。試合観戦などスポーツ利用に加え、コンサートなどにも対応できるUの字型を採用しています。スポーツ時には可動席でフロアを囲い、コンサートなどでは一部をステージにするなど、可変的な観客席を計画しています。

別紙-5をお願いいたします。運営面では、にぎわいの創出、コミュニティーの醸成に寄与してまいります。等々力緑地のポテンシャルを生かし、人々の多様なニーズに応えるため、様々なイベントを開催し、将来的には店舗等も設置して、これまで以上に多くの方に御来園いただき、公園で過ごしてもらう時間を増やしていただきたいと思います。

御説明は以上となります。施設整備はもう少し先となりますが、今月より運営を開始いたしまして、まずは市民の皆様をはじめ、より多くの方に御覧いただけるよう取り組んでいるところでございます。運営者が替わってよくなったと思っただけのよう、様々な取組にチャレンジしてまいります。本日は誠にありがとうございました。

【司会】 小井社長、ありがとうございました。それでは、ただいまの議題に関する質疑に入ります。なお、市政一般に関する質疑については、この後、2つ目の議題の説明と質疑が終了後、改めてお受けいたします。それでは、進行につきまして、幹事社各社の皆様、よろしくをお願いいたします。

【毎日（幹事社）】 幹事社の毎日新聞です。市長にお伺いします。市長、以前の会見で、サッカー専用スタジアムは川崎市にとって悲願だったというようなこともおっしゃっていましたがけれども、歴史的経緯はいろいろあると思いますが、改めてその辺の思い、考えをお聞かせください。

【市長】 まず、この等々力緑地全体として、ここは昔から、子供たちにとっても大人にとっても、スポーツのある意味、非日常の活躍の場であったわけですがけれども、ともすると、プロスポーツのあるときだけがにぎわっているという状況であって、少しもったいない運営のされ方をしていたのではないかなと思っています。そういう意味で、今説明したとおり、365日人が集い、にぎわうような、そういったスポーツの聖地となる、あるいは、あらゆるアクティビティーの場となることを目指してお

ります。

スタジアムに関しては、やはり球技専用というのは、フロンターレのサポーターのみならず、多くの市民にとっても非常に大きな期待がかかっていたところですので、こういったPFI手法を通じて整備と運営ができるというのは、非常にみんなの思いが詰まったことにつながるのではないかと考えています。陸上の環境についてもしっかりとそれは別途整えていくこととなりますので、そこはしっかり納得をいただいていると考えています。

以上です。

【毎日（幹事社）】 ありがとうございます。

【日経（幹事社）】 幹事社の日経新聞です。市長にお伺いします。こういった運動競技場が集まっている場所としては、東京にも神宮がありますけれども、そういった場所と違う等々力ならではの魅力というんでしょうか、人を集めるものはどんなものを想定していますでしょうか。

【市長】 今おっしゃっていただいたように、等々力は首都圏の中でもかなり大規模、駒沢のオリンピック公園よりも大きい敷地を持っているという意味では、首都圏の中では有数のスポーツ施設が集中しているところになります。緑地が多いということもあって、スポーツのみならず、いろんな憩いの場であったりするわけで、そこを一連の一体の運営ということができると、これまでばらばら運営管理していたもので、必ずしもうまく活用できていなかった部分が、民間の柔軟な発想と運営手法によって、より市民にとっても、あるいは市外からの来街者にとっても非常に魅力的なエリアになるのではないかと考えていますので、川崎市のみならず首都圏有数のエリアになると考えております。

【日経（幹事社）】 ありがとうございます。

【産経（幹事社）】 産経新聞と申します。小井社長にお伺いします。いろんな出資のメンバーがいらっしゃると思うんですけども、各社が持っているノウハウ、例えば、ほかのところでこういう運営をやっているメンバーとかそういう方がいらっしゃるどうか、このメンバーだからこそできる、ここの運営について意気込みなどを教えてください。

【小井社長】 ありがとうございます。こちら、1枚目で御覧いただいた9社ございますが、各社から弊社に出向いただき、あるいは出向いただかない方も出資元でバックアップしてくださる、そんな体制を整えております。例えば、東急あるいは富士通は川崎市に非常に根づいている企業でございまして、そもそも川崎市に大きくコミッ

トした企業体でございます。加えて、オリックス、丸紅、あと東急もそうですが、このPFI事業、いろんなところで展開しております、そのノウハウ、これまで準備段階もそうですが、今後も遺憾なく発揮していきたいと考えております。その他の会社におきましても、運営あるいは開発において、そのノウハウ、知見をこの事業に投下していただけることをお約束いただいている、そんな次第でございます。

【産経（幹事社）】 分かりました。スタジアム運営ということでいくと、この中で、ほかですごく実績あるメンバーとかいらっしゃいますか。

【小井社長】 スタジアムということでは特段ないんですけれども、今後いろいろ勉強して、これに当たっていききたいと考えております。

【産経（幹事社）】 分かりました。ありがとうございます。

【毎日（幹事社）】 あと、各社さん、よろしく申し上げます。

【t v k】 テレビ神奈川と申します。小井社長にお伺いをしたいんですが、先ほど、運営者が替わってよかったと思われるように取り組んでいきたいというお話がありました。現状の運営の仕方、こんな問題点があったというのを聞いていると、それから、こんなところを改善して取り組んでいきたいというところをぜひ教えてください。

【小井社長】 特に問題点と認識しているわけではないんですけれども、先ほど市長のコメントにもありましたけれども、各施設が同じ緑地内にもかかわらず、ばらばらと運営主体が行っていたという面がありまして、今般、私どもが一括で運営することで、より効率的な運営もできますし、それぞれ相互がばらばらに動かないような形で一体運営することで新たな魅力もつけられると思っておりますので、そうしたことによって民間の力、川崎市さんからも期待されておりますので、これを発揮して、より多くの方が来ていただけるような、そんな運営を目指してまいりたいと思います。

新たな価値にもいろいろあると思うんですけれども、まず今考えているのは、いろんなイベント、必ずしもこれまでこの立地のポテンシャルを生かし切れなかったとすれば、それを生かすべく、いろんなイベントを展開していくべく今準備しているところでございます。

【t v k】 ありがとうございます。

【朝日】 朝日新聞でございます。小井社長に質問させてください。東急からは御出向という形でしょうか。

【小井社長】 はい、出向で来ております。

【朝日】 会社の社員数を教えていただけますか。

【小井社長】 現在、兼務社員も含めまして22名でございます。

【朝日】 川崎市からの出向者はいらっしゃいますか。

【小井社長】 ございませぬ。

【朝日】 あと、武蔵小杉の駅からやや離れているのが、一つのアクセスの課題なんですけれども、それについては何かありますでしょうか。

【小井社長】 確かに徒歩ですと20分弱ぐらいかかるんですけども、バスですと7分ぐらいで到着します。また、武蔵中原あるいは新丸子からですと10分から15分ぐらいの距離にあるのかなということで、むしろいろんな方とイベントの準備などでお話しさせていただいているんですけども、首都圏からこれだけ近いところにこれだけの広大な敷地、多くのスポーツ施設を擁する、そんなところは希有だということで、むしろ立地はいいと評価をいただいたりしております。

【朝日】 あと、市民ミュージアムが移転することになったんですけども、その跡地もそちらの会社でマネジメントしているのでしょうか。

【小井社長】 そうです。市民ミュージアム自体はマネジメントしないんですけども、ミュージアムの跡地に新たに開発しまして、そちらは私どもが管理してまいります。

【朝日】 大体どんなものというプランはあるのでしょうか。

【小井社長】 まだ正式に決まったわけではございませんけれども、新しいアリーナを造っていきたいと考えております。

【朝日】 新アリーナをそこに建てるんですか。

【小井社長】 まだ決まってははいないんですけども。

【朝日】 今あるとどろきアリーナはどうなるんですか。壊して……。

【小井社長】 新しくアリーナができれば、解体していく形になります。

【朝日】 その跡地は何になるんですか。

【小井社長】 商業施設であったり広場であったり、いろんなことは考えております。

【朝日】 商業施設って、いわゆるショッピングモールの的なものをイメージすればいいんですか。

【小井社長】 重厚な建物を造って、何か大きなものを造るわけではありませんが、市民のニーズにかなったような商業施設も造っていきたくて考えています。

【朝日】 じゃ、現在の駐車台数よりは増えると考えて……。

【小井社長】 そうですね。道路などの渋滞が発生しないような形で、駐車場を設置していきたくて考えています。

【朝日】 ありがとうございます。

【東京】 東京新聞になります。どちらかという市長なのかなと思うんですけども、もともと等々力緑地にあったプールは市民の方にすごく親しまれていた屋外プールだったと思うんですけども、それで今回、再開発に当たって市民の方、主に地域の方から、一部屋外でも残してほしいとか、大きなスライダーがあるようなものをみたい意見もあったように思うんですけども、今回、たしかアリーナの中に屋内プールで入るような計画で考えているというお話でしたよね。そういう形で、市民の方の意向ですとか、これまでの等々力でのプールの歴史とちょっと異なる部分になってくるのかなとは思うんですけども、そういう部分に対して市長としての御意見を伺えたらと思うんですけども。

【市長】 屋外のプールというのは、これまでも議会答弁などでさせていただいてまいりましたけれども、使用する期間が非常に短いということもあって、管理も非常に大変ということで、水に親しんでいくことはとても大切なことだと思いますので、そういった意味では、公園の中でそういった工夫がされていくんだらうとは思いますが、泳ぐという意味では、屋外という限られた敷地の中で造っていくのは、一部屋外がどうしてもという方もいらっしゃるんですけども、あまり有効な土地利用の仕方ではないなとは考えております。

【東京】 屋内というのが今回ベストであると、市長としても考えていらっしゃるかどうか……。

【市長】 そうですね、はい。

【朝日】 小井社長、すみません。筆頭株主はどちらになるのでしょうか。

【小井社長】 東急でございます。

【朝日】 何%……。

【小井社長】 それは公表してないんですけども、代表企業として筆頭になっています。

【朝日】 過半数は捉えていますか。

【小井社長】 いや、それも公表してないです。すみません。

【朝日】 分かりました。

【司会】 ほかに御質問ありますでしょうか。ありがとうございます。

続きまして、記念撮影をさせていただきたいと思います。

(写真撮影)

《今年が東海道川崎宿起立400年！！様々なイベントや中間灯設置などを行います！》

【司会】 お待たせをいたしました。続きまして、2つ目の議題、「今年が東海道川崎宿起立400年！！様々なイベントや中間灯設置などを行います！」について、福田市長から御説明いたします。市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 それでは、東海道川崎宿起立400年の取組について御説明いたします。本年、令和5年は東海道に川崎宿が設置されてから400年目の年となります。現在、地域の方々を中心とした川崎宿起立400年プロジェクト推進会議を中心に、それを記念した様々な取組が進められておりますが、本日、改めて今年度の取組を紹介させていただきます。

まず、1の「東海道川崎宿起立400年に向けたこれまでの取組～約20年の歩み～」ですが、川崎宿起立400年に向けては、平成13年の東海道宿駅制度成立400年を契機に、川崎宿を生かした地域活性化の機運が高まり、平成15年、市民の皆様の提案により「東海道川崎宿2023いきいき作戦」がまとめられ、以降、川崎宿起立400年に当たる2023年を目標年次として、20年にわたり、街道沿いのフラッグ掲示や史跡案内板の設置、平成25年の東海道かわさき宿交流館の開設など、地域の皆様の発意による様々な取組を推進してまいりました。現在は、令和3年に設立した川崎宿起立400年プロジェクト推進会議に、100を超える地元の企業・団体が参画し、この取組をさらに推進しています。

続いて、今年度の取組ですが、2の「地域への愛着や誇りをさらに深めるイベント」といたしまして、今年度のキックオフとなる（1）の東海道川崎宿場まつりと、（2）の全国の宿場関係者などが集う東海道シンポジウム川崎宿大会をコアイベントとして実施するとともに、（3）の川崎宿のジオラマの巡回展や（4）のアジアンフェスタなどの例年のイベントとのタイアップ、また、民間団体等に冠事業を実施していただくことで、年間を通じて盛り上げを図ってまいります。なお、連携イベントの実施時期は昨年度のもので、一部変更になる可能性もございます。

3、「東海道沿いの街灯への中間灯設置に向けた取組」についてですが、旧東海道の街路灯などに「東海道川崎宿」と表示した電灯つき看板の設置を進め、街道としての景観や雰囲気醸成してまいります。

4、「広報等の取組」では、3月に行ったJR川崎駅改札前の広告を、今後も時期を見ながら実施を調整していくほか、歴史の月刊誌への記事掲載やウェブ上でのPR展開を図ってまいります。こうした取組により、川崎宿を地域資源として活用した市民

主体のまちづくりや、後に続く市制100周年の機運醸成につなげてまいりたいと考えております。

その後、最後のページで、推進会議の組織概要や川崎宿の解説等を掲載しておりますので、適宜御参照いただきたいと思います。

説明は以上となります。

【司会】 それでは、ただいま御説明しました2つ目の議題についての質疑応答に入ります。進行につきましては、幹事社各社の皆様、よろしくお願いいたします。

【日経（幹事社）】 日経新聞です。それこそ東海道には53次宿場があったわけですが、川崎宿ならではの400周年記念事業、川崎の魅力をどのように訴えていくか、市長の思いをお聞かせください。

【市長】 この取組、20年間にわたって地域の、特に川崎区の区民の皆さんの発意によって、企業、団体を巻き込んで、非常に地域密着で企画してきたプロジェクトというのが次々と経年でやってきた取組が、その集大成が今年ということになりますので、そういう意味では、いろんな自治体で自治体が相当バックアップしてというのはあると思いますが、むしろ川崎の場合は地域主体、住民主体の取組がこの20年間で続いてきたということが大きいかなと思っております。

そういう意味で、先ほど申し上げたような地元の地域イベントのタイアップということですか、あるいは街路灯をつけようという、街路灯というか、中間灯と呼んでおりますけれども、中間灯を街道沿いにずっと整備していこうというのも、これまた、市民の発意の下から企画、調整されてきておりますので、その辺りが他の自治体ともちょっと違うのではないかと考えております。

【日経（幹事社）】 ありがとうございます。

【毎日（幹事社）】 各社さん、よろしくお願いいたします。

【司会】 質問、よろしいでしょうか。それでは、本議題に対しては終了いたします。また、本議題に関する関係者も退室させていただきます。

《市政一般》

【司会】 引き続きまして、市政一般に関する質疑をお受けいたします。進行につきまして、幹事社各社の皆様、よろしくお願いいたします。

【毎日（幹事社）】 では、各社さん、よろしくお願いいたします。

《4月1日付け人事について》

【朝日】 朝日新聞でございます。4月1日付の人事で、川崎市上下水道局で監察担当ができたんですけれども、市長としてどういった職責を期待されておりますでしょうか

か。

【市長】 昨年度、上下水道局でも不適切な事案というものが発生いたしましたので、内部統制というものをよりしっかりやっという意味で、全庁的にもやっておりますが、上下水道局内においてもその体制をしっかりと整備していくといったところで、今回設置したところでございます。

【朝日】 一応、一連の調査は昨年度内で終了したわけですがけれども、調査結果についての市長の御所感はございますでしょうか。

【市長】 今回新たな調査をやっ、特にそれにおいて、いわゆる法律や条例に違反するというのは見つかりませんでしたけれども、しかし、その以前の調査においては不適切な事案は発生しておりますので、より引き締めて、不適切なものを生まないような土壌を育てていくというのはこれからも取り組んでいかなければならないとは思っております。

【朝日】 どうもありがとうございます。

【司会】 ほかにございますでしょうか。

《統一地方選挙について》

【NHK】 NHKです。統一地方選が告示されました。以前、市長、記者会見で、特別市を推進する人たちに対して応援をしていきたいというお話をされていたと思うんですけども、今回、例えば会派でいけば、自民党の会派ですとかみらいですとかは特別市を推進する方針の会派としての表明をされていると思います。そういった中で、市長としてどのように応援していく御意向ですとか、対応についてどのようにお考えでしょうか。

【市長】 実際問題、県議候補の中で、明確に特別市を全面的に推進すると言っている候補者は残念ながら、今のところでいっしらないと私は理解しておりますので、そういった意味での私からの積極的な応援は、現在においても至っていないのが現状です。選挙後のことになるとは思いますが、より理解が進むようにこれからも取り組んでいきたいと思っております。選挙期間中では、目立った動きはないということですが。

【NHK】 市議のレベルでも同様でしょうか。

【市長】 そうですね。市議の皆さんも、全体としては皆さん、特別市を推進していくという立場にあるので、あまりこの人に特化するというのは適切ではないかなとは思っております。

【NHK】 ありがとうございます。

《カドカワドリームズについて》

【読売】 読売新聞です。全然話題変わるんですけども、川崎市に拠点を置いて活動しているプロダンスチームのKADOKAWA DREAMSが、3年越しの悲願で23日のCS進出をもう確定してしまして、あしたの予選最終戦の結果次第では2位でCSに行けるんですが、ようやく初めてCSに進出できたということで、市長、地元のチームということで、何か期待というか、ありましたらお聞かせください。

【市長】 それはすごくうれしい話ですね。Dリーグができて大分広がりも出てきたと思っていますし、地元高津区に拠点を置いていただいていますので、そういった意味では、地元のチームがいよいよそういったところで活躍されるのは、ますます川崎がダンス、いろんなジャンルのダンスが普及していますので、そこで活躍されるのは私たちにとっても大きな希望にもなりますし、そこに続く人たちがさらに増えるんだろうなということで期待しています。ぜひ頑張ってくださいと思います。

【読売】 ちなみに、拠点が中原区でして、プロデューサーの出身が高津。

【市長】 あっ、拠点はそこか。中原になるのか。

【読売】 新城に。

【市長】 そうか、すみません。中原ですね。失礼しました。

【読売】 ありがとうございます。

【司会】 ほかにいかがでしょうか。

それでは、以上をもちまして定例市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

(以上)

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355